

避難所における認知症高齢者の スクリーニング&アセスメント

目的

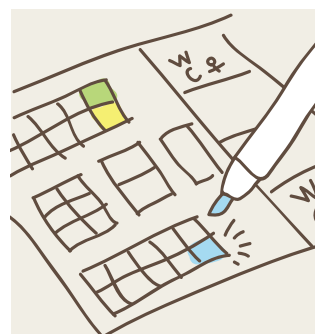
認知症をもつ高齢者にとって、発災と同時に地域が混乱する中、急遽自宅から離れ避難所暮らしを余儀なくされることは心身へのストレスが大きく認知症症状の急激な悪化につながります。そのため、できる限り早期に本人・家族にとって安心して過ごせる場所の確保や環境づくりが重要です。このスクリーニング&アセスメントは、災害急性期（発災4日目頃）以降に、避難所に居る、もしくは来所した高齢者・ご家族の状態に応じ、迅速・適切に居場所提供を行うために作成しました。



手順

- 1.おもて面でスクリーニング実施
- 2.うら面でアセスメント実施
- 3.避難所マップに記載
(支援者間で情報共有)

- 実施のタイミングは、必要に応じて、避難所生活適応アセスメントが必要な高齢者がいる場合に実施する



1 ファーストスクリーニング

- ① 自分の氏名や住所が言えない
- ② どこから、どのように来たか、説明できない
- ③ 同伴した家族の有無を説明できない
- ④ 日付や場所の認識があいまい
- ⑤ 会話のつじつまが合わない、同じ話の繰り返し、災害時であることを理解できていない言動がある
- ⑥ 不安、抑うつ、幻覚、怒りっぽい、落ちつきなく動く等の認知症症状に関連した行動を認める

上記の項目が1つでも当てはまる場合は、うら面の
2「避難所生活適応アセスメント」を実施して下さい。



2 避難所生活適応アセスメント

※複数の区分にチェックが入る場合は、**上位の区分**を採用する

アセスメントの区分 (※2)	高齢者の様子	判断基準の実例	避難所での居場所対応の留意点
<input type="checkbox"/> 区分 4 避難所での対応は困難	<input type="checkbox"/> BPSD(※1) が著明 <input type="checkbox"/> せん妄状態 <input type="checkbox"/> 同じ行動を頻繁に繰り返す <input type="checkbox"/> 混乱状態	<ul style="list-style-type: none"> ・支援に対して、攻撃的な言動がある ・幻覚や妄想を認める ・夜間不眠、大声、昼夜逆転がある ・食事や水分を受け付けず、脱水がある ・他者が止めても「家に帰る」と歩き回る ・避難所を出て行こうとする ・上記の状態が、支援者が介入しても改善されない 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 避難所責任者等へ報告 ※ 福祉避難所もしくは病院・施設への移動を検討する ※ DPAT (災害派遣精神医療チーム) などの専門的支援につなげる ※ 地元の認知症疾患センターなどに相談する
<input type="checkbox"/> 区分 3 日常生活にかなりの介助を要する	<input type="checkbox"/> 短い単語での会話は可能 <input type="checkbox"/> 認知機能低下を認める <input type="checkbox"/> 場所の見当識障害がある <input type="checkbox"/> BPSD(※1) は時々 (特に夜間) 出現する <input type="checkbox"/> ADL の一部支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が強く、家族を何度も呼ぶ ・歩行が不安定で、車いす使用する ・頻回なトイレを訴える ・「ここはどこ？」と何度も尋ねる ・「家に帰る」と訴え、説明に納得するが、しばらくするとまた訴える ・排泄や食事、着替えの援助をなんとか受け入れる ・認知症に応じたケアを行うと落ちついている 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 個室・ベッド対応 ※ 専門職を配置する ※ 介護情報を集める 例 ・認知症の診断の有無 ・要支援・要介護度 ・サービス利用の有無
<input type="checkbox"/> 区分 2 見守りや過ごす場所への配慮が必要 (支援や工夫により避難所で過ごせる)	<input type="checkbox"/> 会話可能だが、つじつまが合わない部分がある <input type="checkbox"/> 時間の見当識障害がある <input type="checkbox"/> 日内変動がある	<ul style="list-style-type: none"> ・何度もトイレに行く ・「帰りたい」と言うが避難所に来ている理由を説明すると一応納得する ・夜になると落ちつきがなくなる ・家族や知人がいると落ちつく ・支援者の説明で状況を理解できている ・物忘れはあるが集団の中で過ごせている 	<ul style="list-style-type: none"> ※ トイレに近い場所 ※ 支援者から目が届きやすい静かな場所 ※ 家族や知り合いの近く ● 『災害時の高齢者支援ガイド 7. 認知症をもつ人への対応』を参照
<input type="checkbox"/> 区分 1 心身の変化に留意して見守る程度で対応可 (共同生活可)	<input type="checkbox"/> 会話がスムーズに可能で自分の状況を説明できる <input type="checkbox"/> どこかちぐはぐな印象はあるが、礼節は保っている	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いておりリラックスできている ・自分の飲んでいる薬は思い出せないが簡単な説明ができる ・今の置かれている状況を理解できている 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 支援者から目が届きやすい静かな場所 ※ 家族や知り合いの近く

※1 BPSDとは

認知症の症状は、認知機能障害 (中核症状) と、行動・心理症状 (BPSD) とに大別されます。認知機能障害は、認知症であれば必ず現れる中核となる症状で、注意障害や記憶の障害、実行機能障害、見当識障害といった障害をいいます。BPSDは、特に環境の影響を受けて、知覚や思考内容、気分または行動の障害を来す症状です。行動症状としては、不安・抑うつ、幻覚・妄想、攻撃性や脱抑制といった症状が現れます。これらの行動症状は、本人の不安や苦痛を緩和すれば軽減もしくは消失する症状といわれています。